

# 社協の基本的スタンス

運営

経営

工業化近代化

善意の配分事業

成長時代  
パイの増大

人口減少・超高齢  
経済の成熟化  
小さな政府

社会性

経済性

人生50年時代

人生100年時代

社会福祉分配  
法制度整備  
保険制度

介護福祉需要の拡大と多様化  
公的福祉財源の縮小  
社会保障制度のミスマッチ  
社会的安全網の機能低下

## 社協の財政再建・経営健全化問題

### 要因

- ①宮津市の行財政改革による補助金の削減ならびに受託業務の補助金施策への変更による補助金削減
- ②人口減少に伴う会費収入の低下
- ③寄付金額の縮小
- ④宮津市の地域福祉計画が減量化に伴う見直しを伴っていない。
- ⑤行政施策との関係もあり減収に見合う社協の改革が進まず。
- ⑥社協の経営分析が不十分で経営実態が的確に把握できる財務管理体制が脆弱である。法に基づく財務管理と会計管理が複雑であり、多種多様な事業展開の経営実態の情報公開が不十分で、社協経営のチェック監視機能が、十分働いていない。
- ⑦社協経営のPDCAサイクルが機能しておらず、計画的な業務執行ができていない。

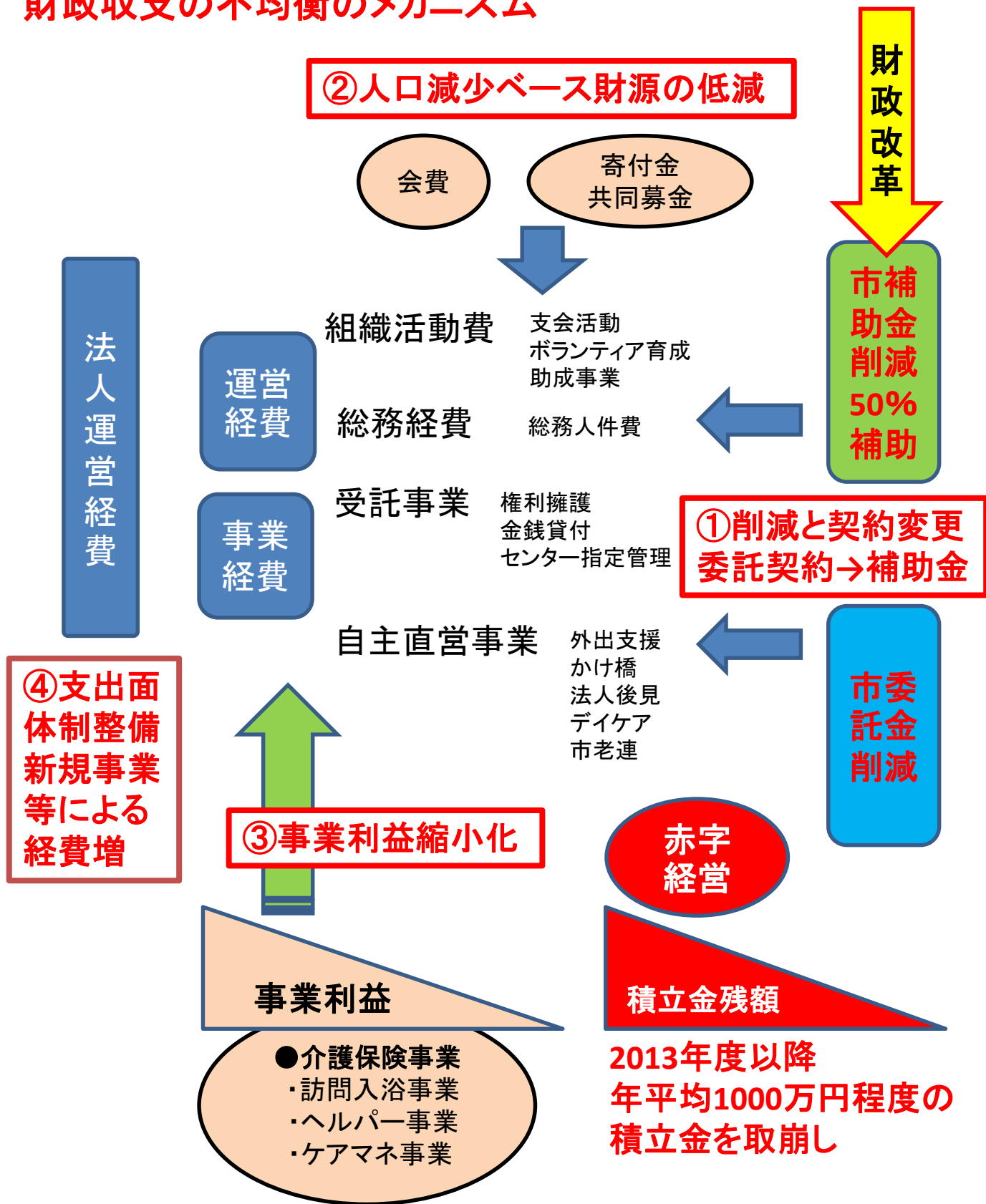
### 経営改革の基本方針

特段の事情のない限り積立金を取り崩す財政収支計画を作らない。

そのうえで3年以内に赤字経営体質から脱却することを目指し、以下の考え方で改革を進める。

- 1.社協の法人経営に必要な運営経費は、原則的に税金で対応する。(補助金原則)
- 2.行政計画に基づく福祉施策の執行は対等と契約原則で行うことを前提として。  
自主的財源と受託業務が曖昧となっている運営の実態を改善し、契約に基づく業務の見直しを進め採算の取れない自主事業は廃止する。
- 3.人件費抑制、役員報酬見直し、経費削減、助成金見直しなどの経営合理化を進め、経営健全化の組織体制の確立を図る。
- 4.会費(普通会費)を800円から1,000円に引き上げ、市民に対する広報活動を強化して特別会費を含めた会費の全体収入の増収を図る。
- 5.赤字となっている自主事業は、廃止の方向で見直すとともに社会的ニーズが高い業務においても経営の観点からあり方を検討する。
- 6.いつでもだれでも社協の経理の実態がわかるよう財務管理の情報公開に努め、PDCAサイクルが機能するよう経営管理システムを再構築する。
- 7.内外の社協経営チェック監視機能システムの強化を図る。

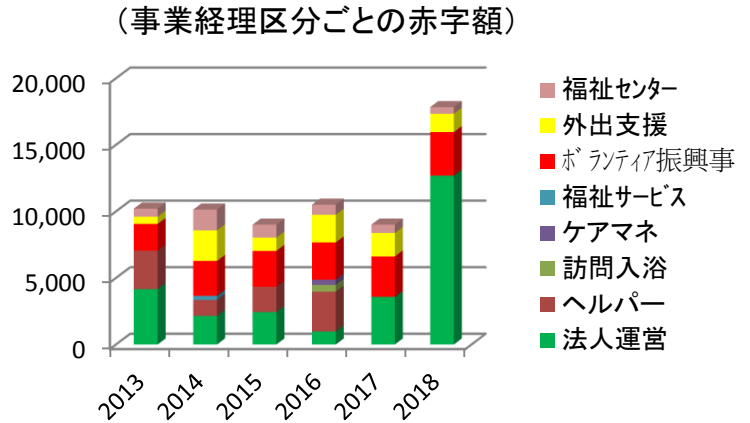
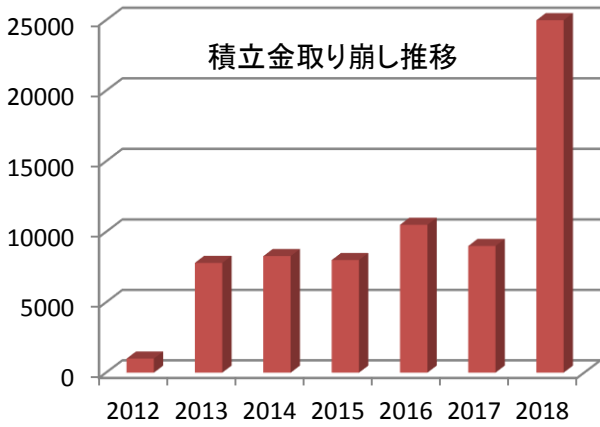
# 財政収支の不均衡のメカニズム



# 積立金取崩しの推移

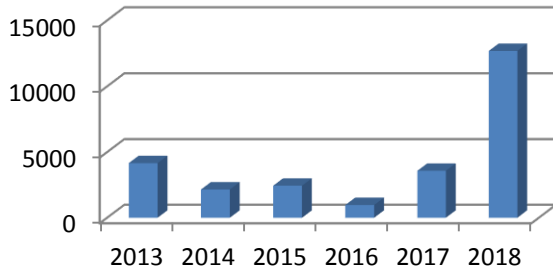
(単位:千円)							
年度	2013	2014	2015	2016	2017	2018	積立金残
取崩し額	7,800	8,280	8,000	10,500	9,000	25,000	<b>50,900</b>

2018年度2,500万円のうち800万円はセンター移転工事費

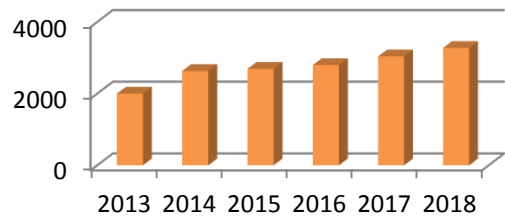


## サービス区分ごとの赤字補填の推移

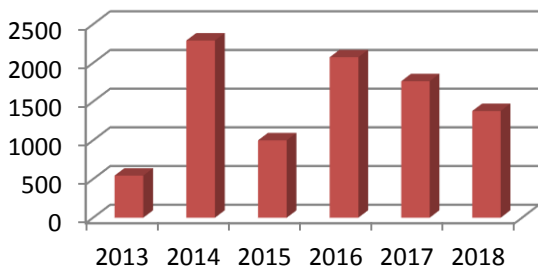
### 法人運営



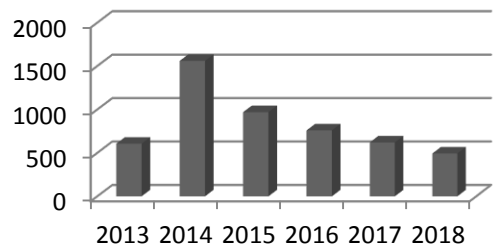
### ボランティア振興



### 外出支援

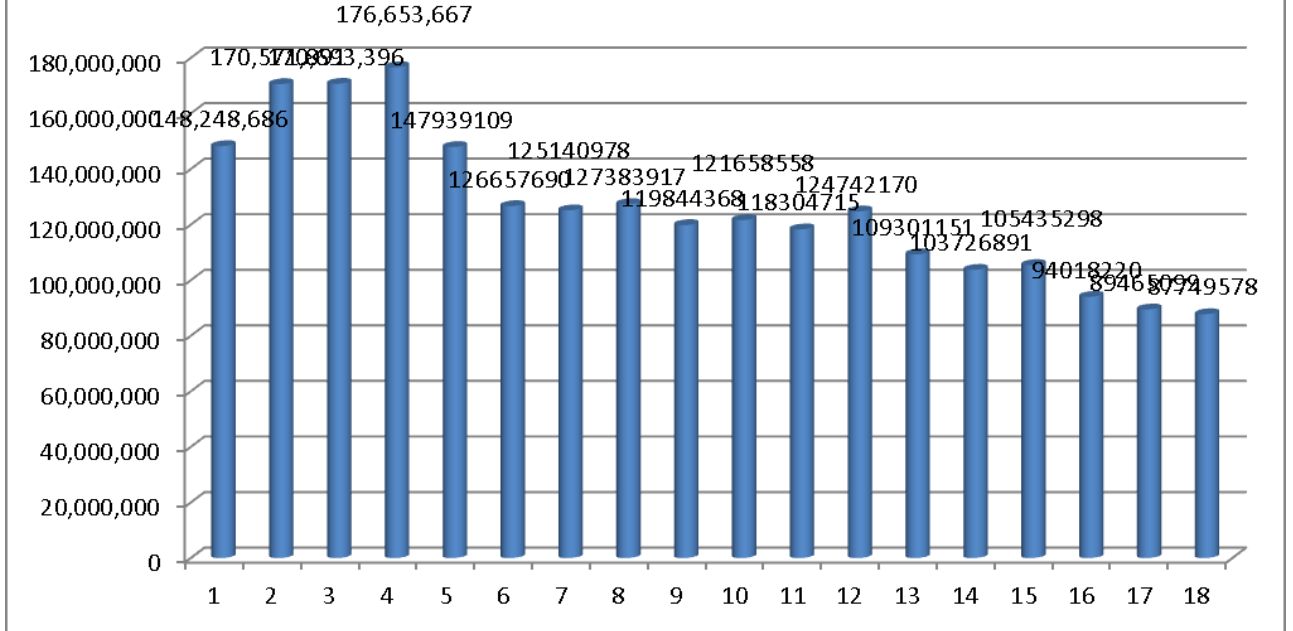


### 福祉センター

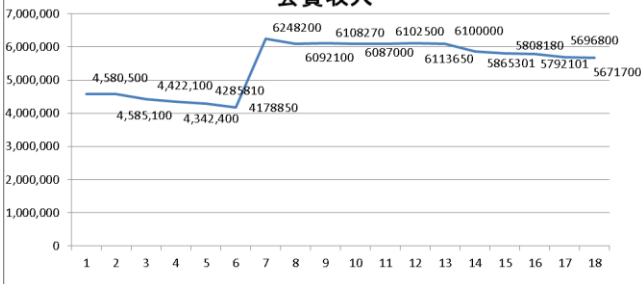


# 2001年度から2018年度までの宮津市社協の財政トレンド

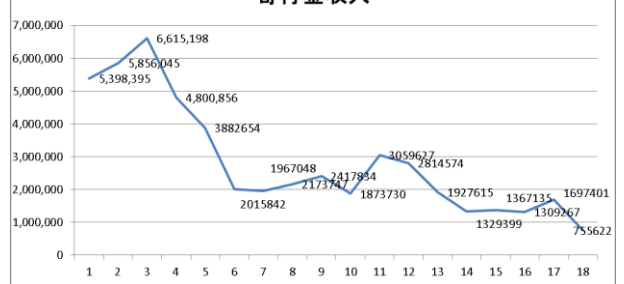
## 収入合計



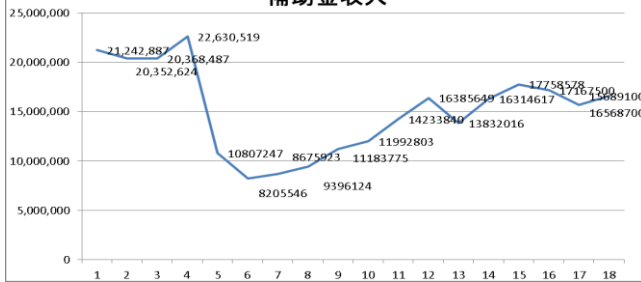
## 会費収入



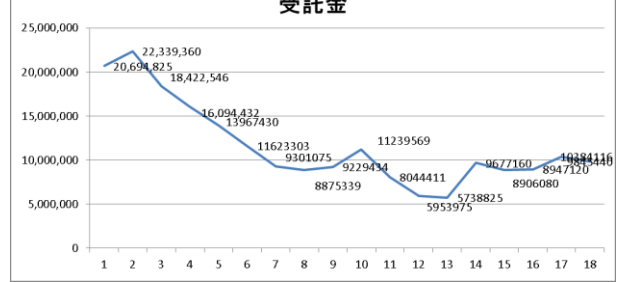
## 寄付金収入



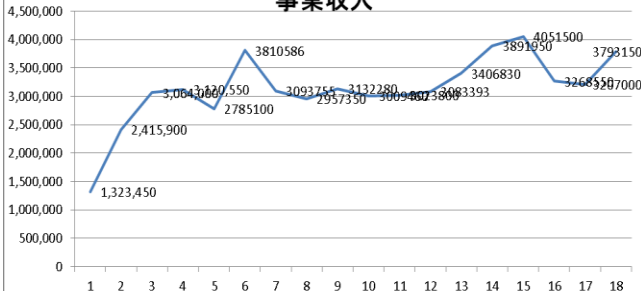
## 補助金収入



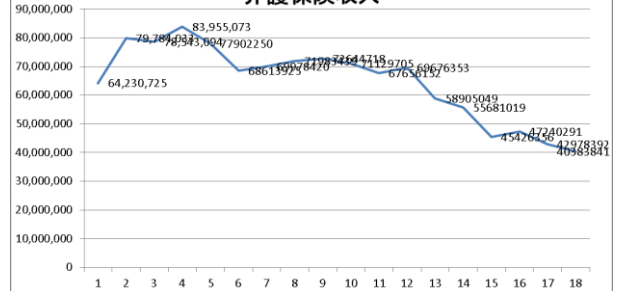
## 受託金

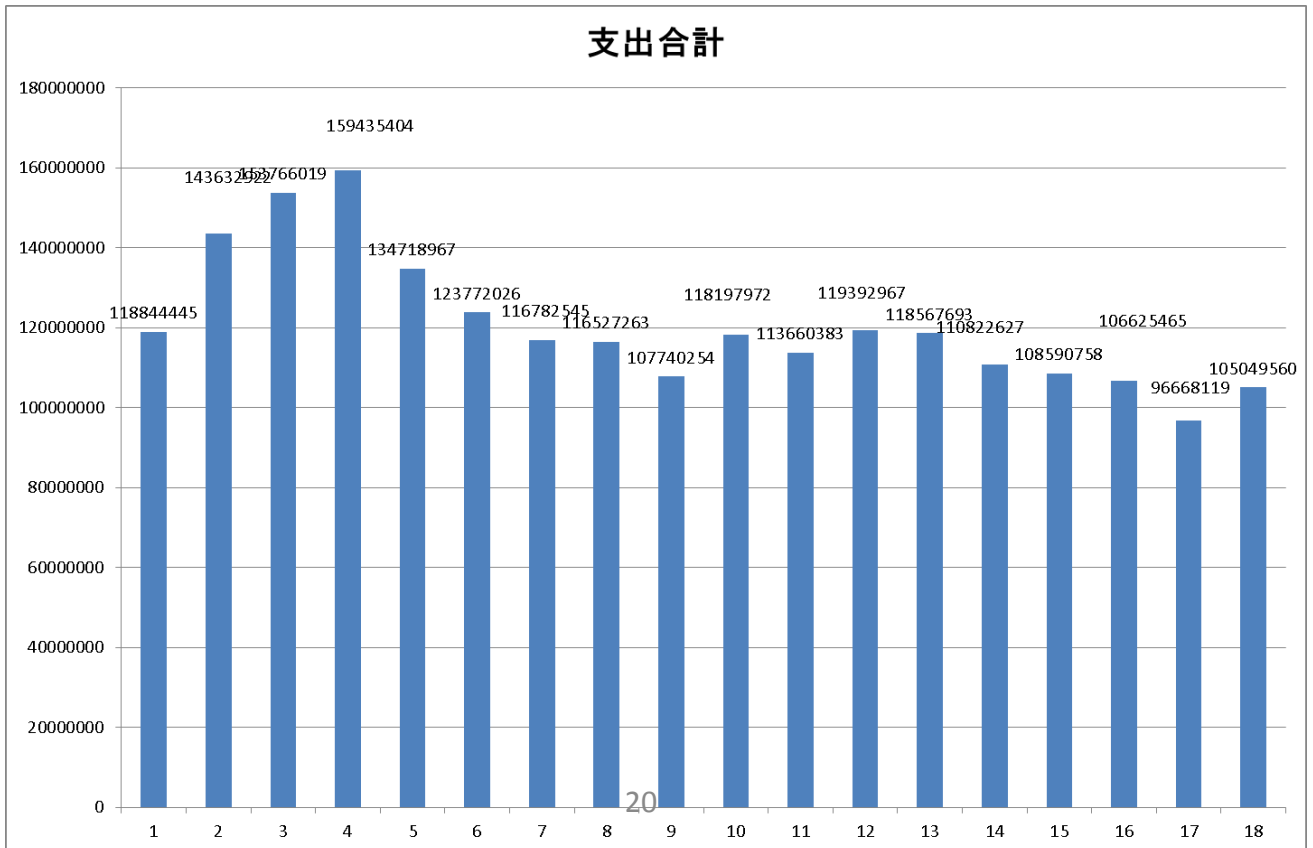
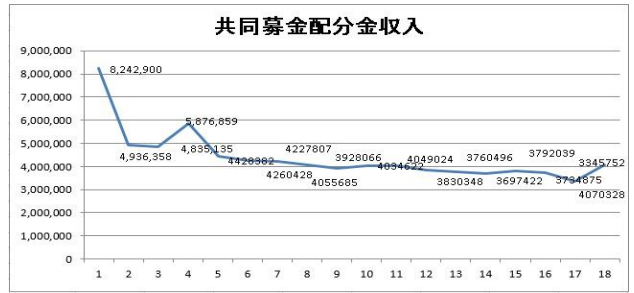
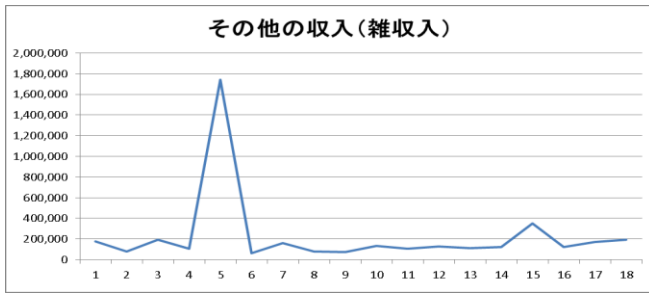
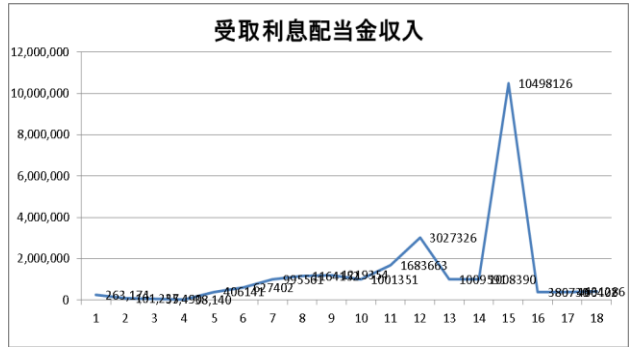
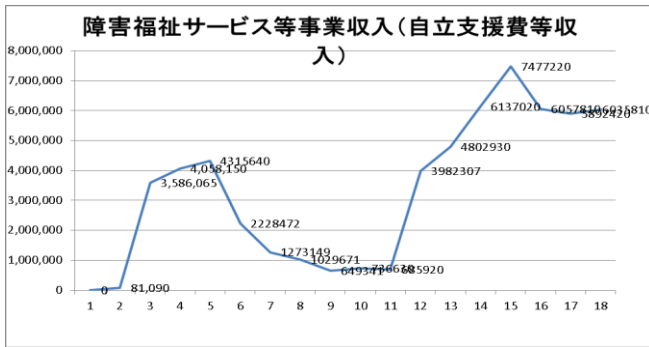


## 事業収入

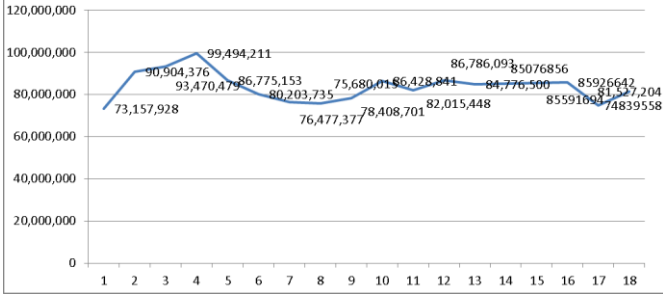


## 介護保険収入

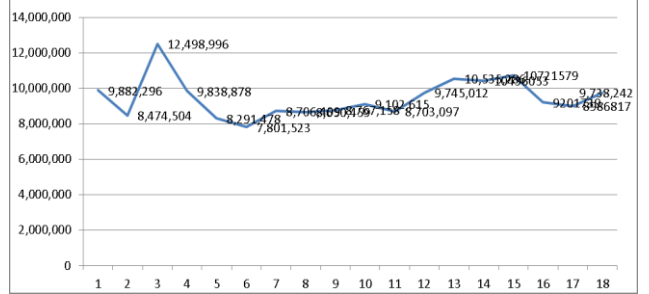




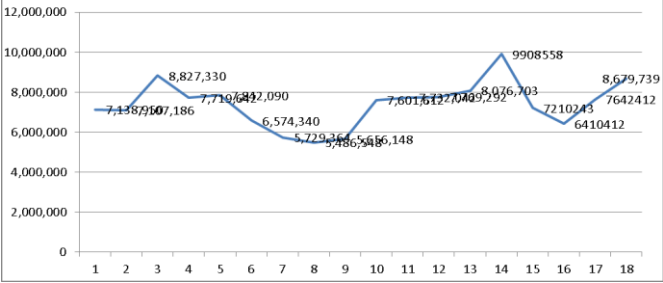
人件費支出



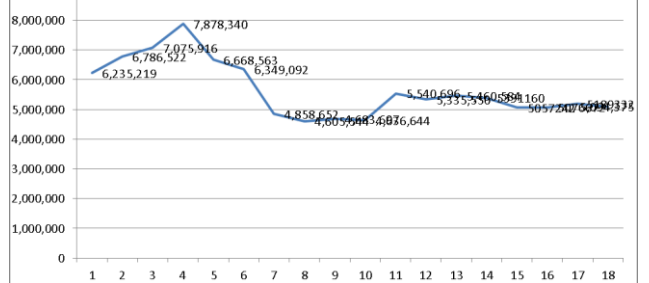
事業費支出



事務費支出



助成金支出



負担金支出

